

令和7年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催日時

令和7年11月17日（月） 10時00分～12時00分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

(1) 委員 21名中17名出席

大谷委員、小西委員、下田委員、砂橋委員、武田委員、玉田委員、出口委員、中藪委員、
西野委員、西原委員、西本委員、服部委員、麓委員、松田委員、安森委員、渡部委員、鰐川委員
(欠席：伊藤委員、古屋委員、高畠委員、橋本委員)

(2) オブザーバー 3名中3名出席

福田オブザーバー、大前オブザーバー、三浦オブザーバー

(3) 事務局（市）

市民局長（冒頭あいさつ後退席）、スポーツ振興課長、教育委員会指導第一課長、教育委員会指導
第二課長、障害福祉課長（代理出席）

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者

0人

6 会議内容

(1) 開会

(2) 委員等紹介

(3) 市民局長あいさつ

(4) 会長及び副会長選出

(5) 議事

ア 令和6年度の主なスポーツ推進施策の取組状況について

イ 令和7年度の主なスポーツ推進施策及び予算について

ウ その他

(6) 閉会

7 会議資料

・ 令和7年度第1回広島市スポーツ推進審議会次第

・ 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

・ 令和7年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図

・ 議事関係資料

議事資料1-1：「広島市スポーツ振興のための取組」に掲げた推進施策の主な取組状況について
(令和6年度)

議事資料1-2：数値目標の進捗状況と今後の方向性について

議事資料2-1：「広島市スポーツ振興のための取組」における令和7年度の主な取組について

議事資料2-2：令和7年度スポーツ振興関係予算について

参考資料：広島市スポーツ振興のための取組

8 主な発言要旨

1 議事ア及び議事イについて

(事務局が議事資料1、2について説明)

○ 服部会長

だいま事務局から説明をしていただきましたが、議事の(1)、(2)について何か、どこからでもよろしいですので、御意見、御質問等あればお願ひいたします。

○ 出口委員

議事資料1－1の地域におけるスポーツレクリエーション活動の振興というところの数値を見ますと、軒並み減少しているということが目につくんですけども、この辺の理由っていうのはどういったところにあるのでしょうか。例えば、一番最初の市民が気軽にスポーツに親しむことについてはいかがでしょうか。コロナ禍もだいぶ落ち着いてきて、実施率も若干上昇気味かなと思っていたんですが。

○ スポーツ振興課長

おっしゃる通り、コロナはもう全く関係ない状況に現場ではなっているように感じています。ただ、実際に数値を見ると、コロナの時にグッと減っており、コロナがなくなれば同じぐらいに戻るのかなと思っていましたが、施設によって違ったりもしますが、区のスポーツセンターとかの状況を見ると戻りきっていないのが現状です。パーセンテージでいうと、8区のスポーツセンターでは、コロナ前である令和元年度と比較すると96%ぐらいになっているという状況です。事業一つ一つについては、参加者が減っているものと減っていないものがございます。それぞれの具体的な減った要因はすぐには分かりませんが、それぞれ事業効果を見つつ、また、その事業単位でのP D C Aサイクルの結果ではないのかなと思っています。

○ 出口委員

ありがとうございます。私が申し上げたかったのは、これは要するに市で行っている事業の数であったり、その参加人数ってことですよね。今、いろんなところで他団体がいろんなイベント事業が行われていて、多分そこに参加する人が増えてきて、むしろその市とか公共の団体でやっているところに参加する市民の方が減ってきてるので、こういうデータになってくるのかなとちょっと思ったんですけども。であれば、トータル的に市民の方の運動をする機会っていうのはそんなに減ってこないのかなということなので、これが少ないから、じゃあここに予算をたくさん回すという安易な考えよりも、他のところに予算を回した方がいいのかなというふうに思ったので、可能であれば、市の事業以外に他の団体、あるいは場合によっては県の事業も入ってくると思うんですけども、その辺がどれぐらいあって、その辺との何か兼ね合いが分かるようなデータを示していただければ、実際にはそんなに市民の運動量、あるいは活動が減っていないというのが見えてくるのではないのかなと思ったので、質問させていただきました。

○ スポーツ振興課長

先ほど市民のスポーツをする機会が減ってなければいいのではないかについては、おっしゃる通りです。我々として一番いいのは、我々が何もしなくても市民全員が何かしらのスポーツに携わってやってもらえるのがいいと思っています。我々の事業としては、そのスポーツをしてない方が一定数いると思うので、その辺を喚起していくというのが役目なのかなと思っています。もし、実際他のところでやっていたら、我々としてはある程度目標を達成するというか、週一回以上スポーツをする市民の割合が100%になれば、広島市が機会の提供をしていくなくてもいいとは思っています。とはいって、広島市の事業以外のところにどれだけ参加しているかを把握するのは非常に難しいところもあるので、どうしても、本市がやっている事業に何人来たかっていうのになります。ただ、出口委員のおっしゃる通りの視点を持ちながら、どうやったら本市以外の事業に参加している方の状況を把握することができるかというのは研究してみたいと思います。

○ 服部会長

さらに言えば、結構かぶつてゐるイベントがあると思います。例えば、スクールであれば、他にやられてないような競技のスクールとかに市が力を入れるという風な工夫もやっていただければいいのかなと。よく事業が被ってしまって勿体ないなと思うことがあるので、その辺を計画の段階で調べていけば、被らないようになると思うので、その辺をぜひ検討していただければと思います。

○ スポーツ振興課長

分かりました。検討させていただきます。

○ 服部会長

今、地域におけるスポーツレクリエーション活動の振興のところをやっていますので、ここの柱のところで何か御質問その他ある方いらっしゃいましたらお願ひします。

○ 砂橋委員

昨年の意見（スポーツ推進委員の欠員に関するもの）に対して丁寧にご回答いただきありがとうございます。その中で感じたのは、このPRがとても効いてくるのかなと思っています。このスポーツ推進委員の論点でいうと、認知度を高めるであるとか、市民の皆様にスポーツ推進員をどう広げていくかというところで、400名のうち1割が欠員ということは、やはりこれ大きい課題なので、この策だけでいけるかどうかというのは疑問に思っています。私の意見としては、現在、その推薦行為を持っている方に情報が届いていない可能性があるので、この推薦行為者を広げるという視点があれば、極端に言うと、スポーツ推進協議会の皆様に1割程度委ねるとか、何らかの政策を持ってこないと埋まらないと思います。なので、そういうインパクトのあるような施策を考えていただけたらありがたいのが一点です。

それから、説明の中に認知度が低いというところがありましたが、実はスポーツ推進委員というのは、地域のスポーツのコーディネーターの方々が、学校運営委員会というか、コミュニティスクールでしょうかね、学校の中に入ってきていただいて、例えば、本人がそのスポーツをするというのではなくて、学校現場でいろいろ優秀な方々を推薦していただくとかいうようなことが機能していくのであれば、中学校部活動の移行化についても、一つの政策になると思います。というのは、このスポーツ推進委員は非常勤の公務員で、行政から委嘱されているので、人格的にも十分な方々だと思っており、そういった取組ができたらいいのかなと思います。これは、とても大事なところなので、やっぱりスポーツを楽しく推奨していく、楽しく遊べる、楽しく関わることができる、ある意味レクリエーションスポーツのところになると思うので、といったところを今後御検討いただけます。

○ スポーツ振興課長

スポーツ推進委員については、今日来てくださっている方の中にも「聞いたことはあるけど、どんなものかわからない」という方もいるかもしれませんので、改めて御説明させていただきます。スポーツ推進員というのは、スポーツ基本法第32条等に定められているもので、市が委嘱する非常勤の公務員になります。広島市のスポーツ推進委員については、各小学校区に人口に応じて2人から4人を委嘱し、健康のための運動や、各種スポーツの実技指導、スポーツ行事の運営等を行っていただいている、地域住民の立場から、いろいろな地域スポーツを支えてくださっている存在です。具体的な主な活動としては、現在、8区で区民スポーツ大会を実施しており、そのお手伝いをしていただいたり、地域によっては町民運動会をやっており、その活動をしたりだと、あとは広島市スポーツレクリエーションフェスティバルの企画運営などにも携わっています。それ以外にも、日々、地域スポーツの実施に当たり、何かあれば相談をしたり、実際に動いて活動していただこうのような存在です。砂橋委員からお話をあった推薦行為については、実際に運営している地域の方にも御意見を伺わないといけないと思うので、ヒアリングをして、実際にスポーツ推進委員が活動しやすいために何が必要なのかを聞いていくことができればと思います。

○ 服部会長

このスポーツ推進委員については、おそらく各自治体で報酬の額とかも違うと思いますが、広島市の場合はどのような状況ですか。

○ スポーツ振興課長

広島市は、謝礼金は一人当たり月額8千円ほどになっています。ただ、実際は、活動に必要な通信費や交通費などいろいろあり、儲けているわけではないと思います。支払いに当たって、毎月、どういう活動をしたか確認するために活動報告をしていただいており、実際には、人によってばらつきはありますが、日々、いろいろな活動をしていただいており、地域振興に大いに貢献いただいているです。

他都市の状況については、おっしゃるとおり、地域によって人数が全然違う状況であり、例えば、横浜市だと特に定数ではなく、ものすごい人数がいます。広島市だと400人ぐらいが定数になっていますが、横浜市だと定数ではなく、なりたい人がみんななれるのかは不明ですが、実際には2,000人ほどスポーツ推進委員がいるようです。ただ、実際には、費用面に関することもあるので、やりたい人が誰でもというわけではなく、体協の会長の推薦などある一定の基準を設ける必要があると思うので、無限に増員するのは難しいのかなと思います。

○ 服部会長

その他、地域におけるスポーツレクリエーション活動の振興に関してよろしいでしょうか？

○ 麓委員

先ほど出口委員がおっしゃったイベントについて、ちょっと付随するところがあるんですが、例えば、柔道の教室で、その後、続けた子がたくさんいるというようにおっしゃったんですが、これは具体的にどれぐらい人数がいるというデータが出ていますか。

○ スポーツ振興課長

令和6年度の実績だと、柔道教室をシリーズものとして2日間連続で来ていただく形にしており、60人ほどの参加がございました。そのうち、保護者が12人であり、こどもたちが48人でしたが、その後12人の方がまち道場に入会したと聞いています。

○ 麓委員

柔道以外でも、毎回のイベントでその続けた子たちがいるというデータも取られている感じですか。

○ スポーツ振興課長

ございます。順に申し上げると、競技によって異なるというのが前提にはなりますが、例えば、ホッケー教室でいえば、昨年は全体で292人のうち、保護者が91人であり、こどもたちは201人が参加して、そのうち8名がホッケークラブに参加したと聞いています。剣道教室については、定員が130人で100名を超える申し込みがありました。最終的に何人入ったかはわからない状況です。セーリング体験会については、親子で34組が参加して、そのうち7名がセーリングを始めたと聞いています。なぎなたについては、32名が参加して、そのうち1名がなぎなたを始めたと聞いています。あとは3世代バウンドテニス体験会というのがあり、17組ぐらい参加し、8組から継続希望の声があったというような状況です。

○ 麓委員

出口委員がおっしゃった、イベントが被っているという話があったと思いますが、やはり、今、スポーツをする子たちは、少しハードルが高いのかなと感じています。学校で絶対ある行事としては、運動会や体力測定だと思うので、そういう運動会の対策であったりだとか、体力測定の対策

とか、こどもたちにとって絶対あるイベントをイベントにするのもいいのではないかなど。民間でも結構依頼があつたりするので、そういういたイベントを打ってもいいのかなとこのデータを見て思いました。

○ スポーツ振興課長

ありがとうございます。おっしゃる通り、効率的な事業を運営していく必要があるので、そういう御意見を受けながら、どうすれば必要最小限の費用で最大の効果を得ることができるかというのは、念頭に置きながら対応していきたいと思います。

○ 服部会長

それでは、学校における体育・スポーツの充実のところに行きたいと思います。この項目について、何か御意見ある方いらっしゃいましたらお願ひいたします。

○ 松田委員

昨年もそうでしたが、全国平均に比べて、広島の小・中学生の運動能力という点で、全国平均を下回っていると。いただいたデータを私も細かく分析してみましたが、小学生で全国より男子も女子も上回ってるのがソフトボール投げだけで、あとは50メートル走が男子だったか女子だったかが上回ってるだけで、あとは軒並み全部全国平均よりも低いと。昨年は、地域によってどういう違いがあるか分かりますかと御質問をさせていただき、それにも絡みますが、この資料の10ページのところに、学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っている割合で気になったのが、特に小学が全国に比べると昨年度も今年度も3ポイント以上の差があります。なんとなくですが、私どもの活動も、例えば、県北の方とか行ってみると、子どもの数も少ないので、チームスポーツやろうと思っても人数が揃わないであるとか、こどもたちが1回家に帰ると、どこかに集まるにしても距離が遠すぎて、1回家に帰ってから、また一緒に遊ぶ、運動するみたいなことっていうが非現実的です。もしかすると、全国平均よりも低いというのは、引き上げているのが、いわゆる都会地域、横浜だとか大阪とか東京とか、そういうところは民間のスポーツクラブが受け皿という形になって、地域のスポーツクラブという部分のスコアが高かつたりするのかなと。これはあくまで推測でしかないんですが。なんでここにこだわるかというのは、先ほどのご説明の中で、20代のスポーツに対する興味関心がないっていうのが、5割近いという数字があったかと思います。これは、必ず長い時間をかけて経緯が多分あると思います。今の20代のこどもたちは、生まれた時からスマホや携帯もあり、いわゆるゲーム機も家庭にあった世代なので、親世代がそこにはまっていると、端からスポーツという選択肢のプライオリティが高くない可能性もあるのかなと。そういうことを考えていくと、ちゃんとスポーツができる環境が整っていて、それが公立なのか、あるいは民間の受け皿なのかみたいなこととかを正しく知るということが一番大事だと思います。それによって、どういう動機付けをするかであるとか、どういう施策を打つかによって、こどもたちの運動習慣を根付かせて、それが最終的に基礎体力につながっていく。こどもの頃からそれをやっていかないと、おそらく、年後は、下手すると全国よりももっともっと低くなっていく可能性がある気がしています。こここのスコアの深掘りを是非していただきたい。どういう特徴があるところがスコアが高いのか等を意識して、来年度で結構ですので教えていただければなと思います。多分、平均と比べるのは、必ずしも正しいことではないと思うので、どこかが突出して高い、どこかが突出して低いとなると、平均値よりも中央値と比較した方がいいというのもあると思うので、そういうところも含めて、この先々、未来を考えた時に、こどもたちに、今、動機付けをしてあげるっていうことの大さを感じた次第です。

○ スポーツ振興課長

ありがとうございます。御指摘はごもっともだと思います。興味のない世代が増えてしまうと、将来的にもっともっと低下してしまうので、今のうちに何かすべきだと思います。その前段として、まずは分析が必要であり、ただ単に数字を出すだけでなく、さらに深堀していく必要があるの

かなと。おっしゃる通り、地域ごとで特徴があると思うので、その地域によって、高い低いというのは、実際には分析は難しいかもしませんが、分析するようにしてみたいと思います。来年度は、この場で御回答できればいいなとは思いますので、宿題として対応させていただきます。

○ 服部会長

全国の平均と比べるのもいいですが、やはり広島市でどう推移してきたのか、おそらく、令和6年だと点数的には過去最低点ではなかったかな。少し記憶が定かでないですが。やはり、年次ごとにどういったところで、全体的にも下がって、広島がどうなのかというのを見た必要があるのかなという気はします。

また、スポーツ庁がやっている調査でも、小・中学校の体育の授業が好きな子ほど、やはり体力水準も高いというようなデータも出ていたと思うので、いかに学校の体育を好きにさせるかというのは大事であり、彼らが中学校、高校を卒業した後のスポーツをやるかやらないかにも大きく関わってくるのではないかと思うので、そういう分析もこれから必要になってくるのではないかでしょうか。

それでは、基本方針3の競技力の向上に関して、御意見、御質問等あればお願ひいたします。

なければ、私の方から1点。アーバンスポーツなどが広島の特徴的なものになってくれば面白いなと思っていますが、去年も実施していたと思いますが、こういった教室をやって、打ち上げ花火で終わるのではなく、いかに継続させて、これに興味を持った子が続けてやりたいと思った時に、ホッケーとかスケートボードとか、常設的にやれるような環境が整えられているのかというはどうでしょうか。

○ スポーツ振興課長

御指摘のとおり、打ち上げ花火（単発）で終わっていいとは我々も思っていないで、このアーバンスポーツフェスティバルについて御紹介させていただくと、今年で3回目になりますが、今まで市が補助金という形でプロポーザルで業者を選定して2回実施しましたが、今年度は、実行委員会を立ち上げました。これは、将来的には自走できるようにしたいと思っており、お金に関しても、自らスポンサーを集めたりしてできればいいなと思っています。実際にアーバンスポーツフェスティバルにはトップ選手も来られ、その中で初心者教室もあり、また、中級者向けのコンテストもやるので、いろいろなレベルの方が集うことができるようになっています。この実行委員会の主になっているのが、広島県アーバンスポーツ協会というのがあり、この協会の会長が実行委員会の会長になっています。このため、こういうイベントを通じて、アーバンスポーツに興味を持った子が、このアーバンスポーツ協会なりが、競技を継続できるような場を持っているので、そういうところにつなぐことができれば、競技を続けることができる環境もしていくのかなと思っています。そういう取組を継続していきたいと思っています。

○ 服部会長

ありがとうございます。こういった、中学校の部活動にないような競技も出てきて、最近、中学校の部活動の地域移行が待ったなしで進められている中で、広島市として、どのように地域展開していくかというようなところにも関わってくると思いますが、その点についてはどうでしょうか。

○ スポーツ振興課長

部活動の地域移行ですが、まずは、今ある部活を少なくとも地域で受けることができるようを考えているのが前提になりますが、最終的には、おっしゃるようにアーバンスポーツだとか、今まで部活動で考えられなかつたものを民間が受けることによって生み出すことができるようにならいいなと思っていますので、そこは、今後検討したいと思います。

○ 服部会長

ありがとうございます。基本方針1や2にも非常に関連するところもあり、地域移行というこ

とになると、いわゆる部活動難民みたいなこどもたちが増えるような気もしています。その辺の対策も含め、学校や教育委員会とも連携をする必要があるとは思うので、よろしくお願ひいたします。
それでは、基本方針4のまちの活力創出に向けたスポーツの振興について、御意見、御質問等ある方がいれば、お願ひいたします。

○ 出口委員

トップス広島と連携した地域活性化事業についてですが、湯来地域での取組で、私も数年前から関わらせていただいており、これを見ると、トップスのチームが湯来地域に行って合宿・イベントをするというのはどんどん広がっていき、非常にいいことだと思いますが、そもそも、湯来地域の発展とか活性化を目指していると思いますが、先ほどの話ではないですが、イベントをやって打ち上げ花火ではなく、それを継続していくというところがしっかりとなされているのかが気になりました。最後、アマチュアスポーツの合宿ということで、いろいろなチームが湯来に来て合宿を行っているというような報告があったので、それは非常にいいことなのかなと思いますが、例えば、県外のプロチームがここに来て合宿をするとか、温泉を使って合宿をするとかに発展するようなことを目指してこういう事業をやっていく必要があると思いますが、その辺の目途はどうでしょうか。

あとは、例えばバスケットゴールの導入とかいろいろな投資がされる中で、私も以前少し話をさせてもらいましたが、例えば、ここで障害者スポーツをやれるような施設を設けるとか。あるいは、宿泊施設も十分じゃないと思うので、この後の予算のところにも関係してくると思いますが、将来の目標・目的というか、そういうことを見越して予算を組んでいっていただければという思い・願いではありますが、その辺の目途などはどうでしょうか。

○ スポーツ振興課長

湯来に関しては、交流人口を増やすことを目的に、活性化プランを地域住民主体で作りました。その中に、4つほど方針があり、そのうちの一つが温泉×スポーツで、我々はスポーツ担当として取組をしているところです。まずは、その場所を認知していただくために、トップス広島に協力していただき、トップチームに来ていただくと、マスコミの方もそれと一緒に来てくれるので、そういう湯来というのはスポーツをする地域だという認知が高まるのではないかと思っており、現在は、トップス広島さんといろいろと連携させていただいているところです。それで、その効果もあり、アマチュアチームの方々に、例えば、サンフレッチャ広島ユースに来ていただき、ユースがやっていることと同じことをやってみたいとかいうような問合せもあったりして、そんな中、今年度については、6チームほど合宿に来ていただいているところです。これについては、自走していけたらなと思っており、我々が何もしなくとも、湯来って合宿する地域だということを認識していただき、アマチュアチームが自由に来ていただきたいと考えています。また、トップチームの方にも、例えば、テントサウナなどを気に入ってくれている方もいるので、プライベートでも遊びに来ていただくとありがたいなとは思っています。

最終的には、こうした取組を地域での自走を目指しているところですが、今の時点では、そこまでは達成できていない状況です。今の取組は継続しつつ、県外のチームを呼ぶまでは、現状、難しいところがあり、アマチュアチームに関しては、自然体験もありますが、やはりスポーツの練習を中心したいというチームが多いので、練習環境としては、地域資源があることによって他の地域と差別化を図ろうとしており、単にそのスポーツ施設だけを見たときに、他の県外の施設に比べて勝っているかというと、それだけ見ると難しいところもあるので、地域資源を絡めながらやっていきたいと思っています。ただ、やはり地域資源だけでは呼べないので、体育館に空調を設置したり、グラウンドを人工芝にするなどのハード面の取組をしており、人工芝については、ある程度遠方からも来るのではないかと思っているところです。なので、ハード・ソフト両面で取組を進めながら、最終的には県外のチームから見ても魅力のある地域になればいいなという思いはあるものの、現時点での目途はどうかと言われると、まずは近隣のチームに活用していただくというのを主にやっていきたいなと思っています。

○ 服部会長

ありがとうございます。それでは次に(3)その他についてです。広島市スポーツ振興の取組やスポーツ全般に関することについて、皆様から様々な御意見を賜りたいと思います。取組の効果をさらに高めるためにも、創作とか課題とか感じていることなど、何でも構いませんのでお願ひできればと思います。

○ 砂橋委員

毎年お願ひベースでお話ししてるんですが、12ページに記載のある障害者スポーツの競技力向上の支援というところについてですが、本年も85万円という金額で、例年並みの金額なんですが、昨年、御説明を伺い、私なりにヒアリングをさせていただきました。障がい者の方がスポーツで全国大会とかいろいろな大会に行かれるときの旅費ということなんですが、これは本人の旅費の補填ということがあります、必ずしも一人だけではなく、チームの指導者であるとか、いろいろな方が帯同される中で、その費用はどうするのかといったときに、本人が負担するか、スタッフが自己負担するということがあります、額については、予算全体を見ていると、もう少し増やすことができたらいいのかなと思っています。これは、お願ひではございますが。

それと、15ページですが、施設管理運営費が令和6年度と比較して令和7年度が増えています。施設管理というのは、スポーツセンターあたりの施設運営ということですね。8区のスポーツセンターがあると思うのですが、そのうち、3区の指定管理者がスポーツ協会以外の団体になったということで、このお金が増えた大きな理由は何でしょうか。施設管理者を変更したから増えたというのではなく、何かあるのだと思いますが、その辺をお聞かせいただけたとありがたいです。

○ スポーツ振興課長

施設管理運営費についてですが、もともと指定管理者制度というのは、5年単位で指定管理者を公募しています。それで、令和6年度と7年度が、その5年間の際となっており、令和2年度から6年度の5年間が指定管理期間でした。なので、もともと令和元年度に指定管理料を決めており、この指定管理期間中にコロナが発生したり、エネルギーが非常に高騰するなど、実際には、当初の金額では賄いきれないような金額になっていました。そのため、もともとの当初予算よりも、実は予見できない不可抗力であるということで、広島市全体で、エネルギー高騰相当額の指定管理料の補填を行ったり、あとは、コロナで利用料金収入が減少した部分を補填したりしていた状況です。

こうした状況を踏まえ、令和7年度については、このエネルギーの高騰や利用料金収入の減少、あとは、人件費も高騰している状況ですので、そういったものを全部ひっくるめた形で再度指定管理料の積算を行った結果、令和7年度以降の5年間については、指定管理料が高くなつたところです。

○ 服部会長

その他何かございますでしょうか。

○ 麓委員

基本的にスポーツをこどもたちにしてほしい、継続してほしいし、そのこどもたちが親になった時に、またそのこどもたちにも指導してほしい、引き継いでほしいという思いがありますが、教育委員会との連携という観点で、教育委員会はどれほど協力していただける感じなんでしょうか。

○ スポーツ振興課長

教育委員会に関しては、広島市スポーツ振興のための取組の4本柱のうち、それぞれ棲み分けがあり、学校教育部分については教育委員会が取組を実施している状況です。連携については、特に地域移行については、より良い形にするために教育委員会とスポーツ振興課が一緒に取り組まないといけない部分であり、必要に応じて連携しているような状況です。

○ 麓委員

もし可能であればですが、全国学力調査とかで、朝食を食べているかというチェック項目があり、食べていない生徒の学力が低下しているというデータが取れていると思いますが、もっとこの詳しいデータが欲しいと思ったので、例えば、運動する習慣があるかどうかについても、学力にやはり影響が出ると思うので、そういったチェック項目とかも付けていただければ、もっといいデータが取れて、みんなで議論するにしても、もっといい案が出せるのではないかなと思いました。

○ スポーツ振興課長

ありがとうございます。おっしゃる通り、何かの施策をするときに、事前にデータがどうなっているかという分析は非常に重要なことだと思うので、実際に教育委員会の方でもいろいろなデータを毎年取っていますが、全国的に取らないといけないデータと、独自にどれだけプラスアルファできるかというはあると思うので、そこを確認しながら必要に応じて対応できることであれば対応していきたいなと思っています。

○ 服部会長

ありがとうございました。教育委員会のみならず、県との連携っていうのも当然必要になってくると思うので、よろしくお願ひいたします。その他ございますでしょうか。

○ 大谷委員

今回、初めて参加させてもらいましたが、いろいろと細かなところまでやられているんだなと思いました。私は今、約20年、小学女子児童のフットベースボールの監督をやっています。私がやり始めた20年ちょっと前は、学校区の中の町内会でチームができていましたが、今はこの学校区で1チームを作るのにも結構苦労しています。ただ、そんなにこどもが減っているわけではなく、やはり何が原因かというと、こどもたちは、サッカーやソフトにしろ、いろいろな運動をやりたいんですが、親の協力がなかなか得られないというネックがあります。今ここで話してどうこうはないんですが、こどもたちがスポーツをどんどんやりたいっていうのは、私も感じているんですが、親の共働きが増えてきたというのもあり、やらせてあげたいけど、なかなかこどもたちを見てあげることができない状況です。ただ、家を出て帰ってこいというだけであれば簡単かもしれないけど、やはり1年生から6年生まで私ども見ておりますので、そうなると、いろいろとヘルプが必要だったりするので、そこを、違う方のヘルプを得られながらできないかなと試行錯誤をしているというところです。人数が増えればそれなりにヘルプしてくださる方も増えると思うので、どんなスポーツがやってみたい、やってみようというところを学校で案内していただければいいなと思っているところです。とにかく、こどもたちはスポーツをやりたいというのは結構思ってるみたいです。

○ 服部会長

ありがとうございます。まさに、する、見る、支えるっていうところ。広島の場合はすごく見るスポーツは全国的にも上位に入っていますが、する、支えるの部分をしっかりと充実させて、新しいスポーツ王国広島につながるように、今日いろいろたくさんの方の御意見が出ましたので、広島市のスポーツ振興に役立てていただければと思います。その他ございますでしょうか。

○ 西野委員

本当に細かい調査とデータの収集に本当に感謝します。ありがとうございます。その中で、地球環境の変化によってスポーツや体育の在り方が、私がこどもの頃とは随分変わっているなと思うことがたくさんあります。とはいえ、スポーツが体の健康だけでなく、心の健康にとても役に立っているというか、なくてはならない存在であるなというのは日々実感しております。地域で顔が見える関係性の中で、いかにこどもから高齢者の方まで幅広い年代が多様化する中で、スポーツも含めて社会参加をしていくことっていうのが非常に大事かなと感じているところです。先日、こどもやその保護者の方と一緒にスポーツをやる機会があり、いろいろ話をさせていただきました。その

際に、こどもに他にどんなスポーツをしているのか聞いたら、水泳もやっているし、ダンスもやつており、たくさんのスポーツを経験されているこどもも、私が何人か話を聞いた中ではたくさんいました。私が見落としてたら申し訳ないんですが、週に何回スポーツをしますかというデータはあります、何種類のスポーツをしているかというデータがあれば、大谷委員も言われていたように、こどもたちってたくさんスポーツしたいんだなっていうのを私も感じました。

スポーツを好きな子がこうやってたくさんやっている子もいれば、環境的になかなかすることが難しい子の偏りがもしかしたらあるのかなというのもちょっとと思いました。それに伴って、夏であれば熱中症で、今はもう毎日のようにニュースで見るクマの出没などもあり、こどもが外で安心して運動ができない、遊べない環境にもちょっとあるのかなと思っております。広島が平和で安心して安全な地域で、そのスポーツが居場所にもなり、たくさんのスポーツが経験できる地域になっていければなど。意見というか感想としてお伝えさせていただきました。

○ スポーツ振興課長

御意見ありがとうございます。いくつのスポーツをしているかというデータなんですが、市民意識調査でデータを収集しています。これが18歳以上を対象にしており、それ以下のこどものデータがないところです。この市民意識調査というのが、スポーツのことだけではなく、広島市が住みやすいかどうか、交通がどうか、医療がどうか、こどもの子育て環境がどうかなど、多数ある質問項目のうち、スポーツに関する質問項目が数問であり、細かいところまで聞けていない状況です。

ただ、おっしゃった通り、こどもがいろいろなスポーツをやるというのはとてもいいと思うので、その中で自分に合うスポーツを選んでいくというのがあると思います。まさに、この考え方は、初心者体験教室に向いていて、例えば、1回どこかに入ってしまうと、なかなか辞めにくいというものもあったりするので、この競技団体が主催する初心者体験教室等でいろいろ体験して、自分にはこれが向いているとか、これが好きとかというのを見極める狙いもあるので、そういうところは合致するかなと思いました。御意見ありがとうございます。

○ 服部会長

もしかしたら、大規模的なジュニアを対象にした調査っていうのが今後必要になってくるような気もしています。他にないようでしたら、本日予定しておりました議事は以上です。ありがとうございました。